

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **104** 号

平成30年 1 ・ 2 ・ 3 月



●釈迦如来坐像（奈良・室生寺）

特別陳列

おん祭と
春日信仰の美術
～1月14日(日) 東新館

特集展示

新たに修理された文化財
～1月14日(日) 西新館

特別陳列

お水取り
2月6日(火)～3月14日(水)
東新館

特別陳列

修理完成記念
薬師寺の名画
2月6日(火)～3月14日(水)
西新館

名品展

珠玉の仏たち
通期開催(1月9日～12日臨時休館) なら仏像館
中国古代青銅器
通期開催 青銅器館
珠玉の仏教美術
～3月14日(水) 西新館

特別陳列

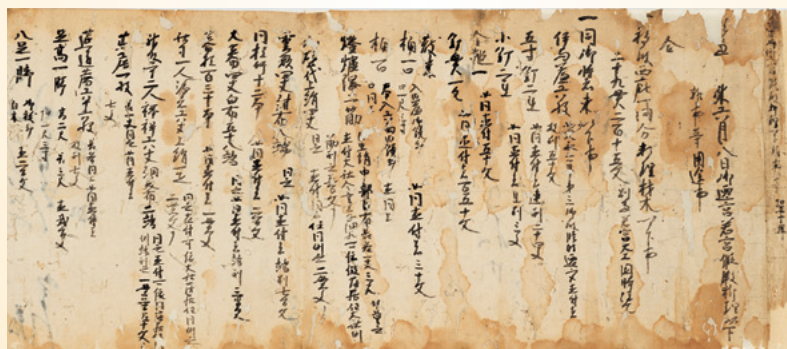
おん祭と 春日信仰の美術

―特集 社家史料と若宮―

1月14日(日)

保延二年(一一三六)の創始から、八百八十年を超える歴史を持つ春日若宮社のおん祭。昨年も十二月十七日に御旅所祭、お渡り式などが盛大に執り行われました。

毎年この時期に合わせて開催している本展では、お渡り行列を描いた絵巻物などで華やかな祭礼の様子を紹介しています。今年は他に、江戸時代以前に春日社の神官を務めた旧社家に伝来した史料を多く展示し、それに春日大社の古文書などを織り交ぜ、おん祭と若宮の歴史を辿ってみました。さらに、御造替の古い記録も特集しています。



若宮御遷宮仮殿料用途記 (個人)



永享七年春日社司中臣祐時記 (個人)



春日若宮御祭礼絵巻 中巻 (奈良・春日大社)



木瓜形金具(御殿簾金具) (奈良・春日大社)

特集展示

新たに修理された 文化財

1月14日(日)

長い時を経て今に伝わる文化財は、その多くが過去に修理を受けながら大切に保存されてきたものです。当館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品(館蔵品・寄託品)について、毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示は、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開するものです。また、その修理内容についてもパネルで紹介します。



◎三角縁三神三獣鏡(奈良県佐味田宝塚古墳出土)(当館)の修理の様子

お水取り

2月6日(火)～3月14日(水)

春待つ奈良の年中行事として知られる東大寺二月堂のお水取り。正式には「修二会」といい、本尊の十一面観音に罪過を懺悔し、五穀豊穡・除災招福を祈る「悔過」の法要です。三月一日から十四日にかけて、心身を清めた僧（練行衆）が参籠し、体を投じて懺悔する「五体投地」や、堂内を駆け足で行道する「走り」などの儀式に臨みます。この修二会は天平勝宝四年（七五二）に実忠和尚が創始したと伝えられ、今日まで一度も欠かされたことのない「不退の行法」として受け継がれてきました。

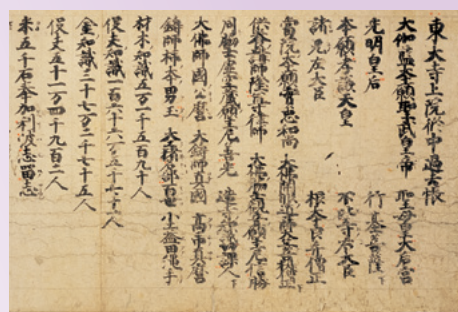
本展は、お水取りの時期にあわせて開催する恒例の企画です。実際に用いられた法具や、歴史を伝える絵画・古文書・出土品などから、お水取り（修二会）への理解を深めていただければ幸いです。



◎二月堂本尊光背(頭光)
(奈良・東大寺)



二月堂縁起(下巻・第三段) (奈良・東大寺)



二月堂修中過去帳 (奈良・東大寺)

薬師寺の名画

―板絵神像と長沢芦雪筆旧福寿院障壁画―

2月6日(火)～3月14日(水)

南都の絵仏師・堯儼が永仁三年（一二九五）に筆を執った板絵神像。女神の端麗な姿が印象的な垂迹画の傑作です。

「奇想」の画家・長沢芦雪（一七五四～九九）が描く旧福寿院障壁画。自由闊達な筆力が遺憾なく発揮された芦雪の代表作といっても過言ではありません。本展は、知る人ぞ知る薬師寺の二大名画の修理が完成したことを記念して、その魅力あふれる全貌を紹介するものであり、文化財修理の意義を広く知っていただくまたない機会となります。



旧福寿院障壁画のうち松虎図横 (奈良・薬師寺)



◎板絵神像 部分 (奈良・薬師寺)



◎板絵神像 部分 (奈良・薬師寺)

「創建春日塔の姿にせまる」

当館学芸部主任研究員 中川 あや



春日宮曼荼羅(当館蔵)に描かれた再建春日塔(手前が西塔)

青銅器館の南と、南西の方向に、大ぶりの石が点在する小高い一角があることをご存知でしょうか。これは、かつて春日大社境内にそびえていた二基の塔の跡地で、点在する石は塔の柱を支えた礎石です。古文書を紐解くと、二基のうち西側の塔は永久四年(一一一六)に関白・藤原忠実が発願した「殿下御塔」、東側の塔は保延六年(一一四〇)に鳥羽上皇が発願した「院御塔」であることがわかります。その後、両塔は治承四年(一一八〇)に平重衡の南都焼き討ちにより焼失するのですが、東塔は建保五年(一二二七)に、西塔は宝治年間(一二四七―一二四八)に再建されます。しかし、応永十八年(二四二一)に両塔とも雷火によって失われ、以後、再建されることなく現在に至ります。

これら、いわゆる春日塔の往時の姿は、中世以降、春日信仰が広まる中で生み出された絵画、「春日宮曼荼羅」にみることができます。春日宮曼荼羅は春日大社の社殿を中心に聖地・春日野を一望する鳥瞰図です。様々な春日宮曼荼羅の作例において、春日塔は五重塔で瓦

葺き、塔は築地塀(南面のみ回廊)で囲まれるように描かれるケースが一般的です。実は、昭和四十年(一九六五)に、春日塔跡の発掘調査がおこなわれたのですが、その際、地下遺構や瓦を始めとする遺物がみつきり、古文書から復元される通り、塔が二時期にわたって営まれたことや、春日宮曼荼羅に描かれた春日塔が、再建後の姿を比較的忠実に表した可能性があることなどがわかりました。

では、創建された頃の春日塔はどのような姿だったのでしょうか。近年、当館で進めている出土品再整理の過程で、興味深いことに気がつきました。創建の頃のものと思われる平安時代の軒瓦が塔の周辺からはほとんど出土せず、築地塀や門といった塔を囲む施設の跡地からしかみつかっていないのです。また、それらの軒瓦の文様はバラバラで統一感がありません。古代において建物を新築する際には、独自の軒瓦の文様をデザインし、軒先の景観に統一感をもたせるのが一般的、なのです。

このことは、創建時の春日塔の屋根が、檜皮葺きや板葺きなど、瓦以外の素材で葺かれていた状況を示すのかもしれませんが。檜皮葺きや板葺きは日本古来の屋根様式で、一般には天皇の住まいや神社建築などに採用されます。春日塔は神仏習合の賜物なので、建築方式も融合的だったのだろうか、と想像が膨らみます。また、築地塀や門の軒瓦の文様が統一的でないのは、近隣の寺院や瓦工房から、様々な余剰瓦の提供を受けたためであるかもしれない。これは、春日塔が軒瓦のデザインを創案する間もないほど大急ぎで建設されたためか、それとも、塔本体ではなく囲繞施設の屋根なので、既存瓦の転用で充分だと判断されたためか。今後、他の出土品の再整理を進める中で、絵画や古文書には表れにくい春日塔の姿を浮彫りにしていきたいと思っています。

●大毘盧遮那成仏神変加持經	卷第四	西大寺
報恩經	卷第七	当館
大般若經	卷第二百五(永恩具經)	当館
大般若經	(安倍小水麻呂願經)	慈光寺
大威徳陀羅尼經	卷第八(法隆寺一切經)	当館
●大威徳陀羅尼經	卷第十六(紺紙金字)	乘宝寺
●一字宝塔法華經		
卷第三、第五(紺紙金字)		当館
●大般若經	(七寺一切經)	七寺
仏母般泥洹經		当館
大般若經	卷四百二(源豪一筆經)	当館
大般若經	(快円一筆經)	当館
●法華經	(東大寺僧宗性願經)卷第一	当館
〔工芸〕		
1月8日(月・祝)		
●鰐口	長谷寺	
●鰐口	当館	
●鰐口	西方寺	
●鰐口	大福光寺	
●鰐口	葉師寺	
●鉦鼓緑	唐招提寺	
●鉦鼓	手向山八幡宮	
●唐鼓	手向山八幡宮	
●海松円文鞍	手向山八幡宮	
●琵琶	丹生都比売神社	
●男神鏡像	当館(服部和彦氏寄贈)	
●男神対向鏡像	当館	
●男神懸仏	石上神宮	
●山王七社本地懸仏	当館	
●山王七社本地懸仏	当館	
●三鈷柄剣	鞍馬寺	
●太刀	銘義憲作	
●太刀	銘助宗	
●太刀	銘吉平	
●王子形水瓶及び承盤	談山神社	
●王子形水瓶	当館	
●仙蓋形水瓶	当館	
●仙蓋形水瓶	当館	
●水瓶	当館	
●布薩水瓶	当館	
●布薩水瓶(鯉口形)	個人	
●信貴形水瓶	当館	
●信貴形水瓶	個人	
1月10日(水)～2月4日(日)		

●鰐口	長谷寺	
●鰐口	当館	
●鰐口	西方寺	
●鰐口	大福光寺	
●素文磬	葉師寺	
●素文磬	聖林寺	
●孔雀文磬	当館	
●草花孔雀文磬	文化庁	
●草花文磬	峰定寺	
●蓮華形磬	細見美術財団	
●宝相華文蓮華形磬	赤松院	
●銀網地雲鶴文打敷	長谷寺	
●三具足	聖衆来迎寺	
●柄香炉	高山寺	
●卓	東大寺	
●礼盤	峰定寺	
●飛天(金堂天蓋附屬)	法隆寺	
●天蓋軸部	当館	
●男神鏡像	当館	
●男神鏡像	当館	
●男神対向鏡像	当館(服部和彦氏寄贈)	
●男神懸仏	石上神宮	
●山王七社本地懸仏	当館	
●山王七社本地懸仏	当館	
●王子形水瓶及び承盤	当館	
●王子形水瓶	当館	
●仙蓋形水瓶	当館	
●仙蓋形水瓶	当館	
●水瓶	当館	
●布薩水瓶	当館	
●布薩水瓶(鯉口形)	個人	
●信貴形水瓶	個人	
●信貴形水瓶	個人	
2月6日(火)～3月14日(水)		
●鰐口	長谷寺	
●梵鐘	当館	
●梵鐘	文化庁	
●梵鐘	海住山寺	
●素文磬	宝泉寺	
●孔雀文磬	聖林寺	
●草花孔雀文磬	当館	
●草花文磬	文化庁	
●蓮華形磬	峰定寺	
●宝相華文蓮華形磬	赤松院	
●首懸駄都種子曼荼羅厨子	当館	
●宝篋印塔嵌装舍利厨子	当館	
●密観宝珠嵌装舍利厨子	金剛山寺	



火焰宝珠形舍利容器 当館



鹿形埴輪(静岡県田辺平1号墳出土) 浜松市

●能作性塔	海住山寺	
●能作性塔	当館	
●三角五輪塔形舍利容器	浄土寺	
●卓	東大寺	
●礼盤	峰定寺	
●二月堂食堂机模造	当館	
●当麻曼荼羅厨子軒先板復元模造	当館	
●赤地蓮池水禽文錦打敷	般若寺	
●転法輪筒	当館	
●組法具	唐招提寺	
●蓮弁飾一面器	唐招提寺	
●金胎両部三昧耶形文華瓶	持福寺	
〔考古〕		
3月14日(水)		
●家形土器(鳥取県湯梨浜町藤津出土)	鳥取県立博物館	
●線刻絵画銅剣	鳥取県立博物館	
●銅矛(愛媛県四国中央市出土)	当館	
●銅鐸	妙国寺	
●土器枕(鳥取県古郡家1号墳出土)	鳥取県立博物館	
●埴枕(奈良県五條猫塚古墳出土)	当館	
●水鳥裝飾付須恵器蓋	鳥取県立博物館	
●人物線刻裝飾付子持壺	鳥取県立博物館	
●馬形埴輪(静岡県北条市出土)	当館	
●馬形埴輪(静岡県郷ヶ平3号墳出土)	浜松市	
●鹿形埴輪(静岡県田辺平1号墳出土)	浜松市	

大形埴輪(伝茨城県東海村外宿出土)	当館
●風鐸(奈良県山村廃寺出土)	円照寺
●石製相輪(奈良県山村廃寺出土)	円照寺
●蓮華文鬼瓦(奈良県山村廃寺出土)	個人
●軒丸瓦・軒平瓦(奈良県山村廃寺出土)	当館
●風鐸(和歌山県上野廃寺出土)	当館
●隅木蓋瓦(和歌山県上野廃寺出土)	当館
●風鐸・風招(鳥取県伯耆国分寺出土)	鳥取県
●軒丸瓦・軒平瓦(鳥取県伯耆国分寺出土)	鳥取県
●靈安寺塔跡出土土鎮壇具(銭貨・銅鏡・鏡)	鳥取県立博物館
●山代忌寸真作墓誌	当館
●佐井寺僧道業墓出土品(墓誌・蔵骨器)	当館
●行基墓誌殘片	当館
●蔵骨器(灰釉平瓶)	当館
●蔵骨器(灰釉短頸壺他)	当館
●(茨城県石岡市出土)	当館
●青磁牡丹唐草文深鉢	正暦寺
●(奈良県正暦寺出土)	正暦寺
●銅製経筒・陶製外筒	当館
●(和歌山県粉河経塚出土)	当館
●陶製壺・甕	当館
●(伝和歌山県白浜経塚出土)	当館
●六器・火舎	当館
●(伝和歌山県白浜経塚出土)	当館
●銅製高杯・木製高杯	当館
●(伝和歌山県白浜経塚出土)	当館

草花双鳥鏡

(伝和歌山県白浜経塚出土) 当館

青磁合子・白磁合子

(伝和歌山県白浜経塚出土) 当館

陶製経筒(伝愛媛県北条市出土) 当館

経筒(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

銅鏡(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

六器(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

華瓶(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

独鈷杵(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

白磁合子

(伝山口県長門一宮経塚出土) 当館

●銅製経筒・滑石製外筒(伝福岡県出土)

当館

(※は考古資料相互活用促進事業による展示)

※●●国宝 ●重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合があります。

名品展

中国古代青銅器 (坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています

(しばらくの間一階のみの展示となります)。

【表紙写真解説】

国宝 釈迦如来坐像

しゃかによらいざどう

木造・彩色 平安時代(9世紀)

像高一〇六・三cm 奈良 室生寺

女人高野、室生寺の弥勒堂に伝来した。当初は一堂の本尊であったはずだが、今その原所在地について知る手がかりをもたない。カヤ材を用いた一木造の像で、ロープ状の衣の襷と鎧の立つた襷とを交互に繰り返す翻波式衣文が顕著に認められ、また随所に渦文を配して、表面の彫りはまことに華麗である。重量感に富む体型や威厳のある面立ちも、平安時代初期彫刻の典型的な作品と評することを可能としよう。頭部には螺髪がないが、かつては別製のものを貼り付けていたかもしれない。

岩田 茂樹(当館上席研究員)

◆名品展「珠玉の仏たち」(なら仏像館)にて展示

❖ 公開講座 ❖

■特別陳列「おん祭と春日信仰の美術

—特集 社家史料と若宮—

1月8日(月・祝) 14:00~15:30(13:30開場)

「神主たちの見た『おん祭』」

千鳥 祐兼氏(春日大社権禰宣)

※当館の通例の公開講座とは開始時刻が異なりますのでご注意ください。
※12:30から講堂前にて、入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

■特別陳列「お水取り」

2月17日(土) 13:30~15:00(13:00開場)

「不退の行法、東大寺修二会(お水取り)」

北河原 公敬師(東大寺長老)

※12:00から講堂前にて、入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

■修理完成記念特別陳列

「薬師寺の名画—板絵神像と長沢芦雪筆旧福寿院障壁画—」

3月3日(土) 13:30~15:00(13:00開場)

「長沢芦雪と薬師寺旧福寿院障壁画」

安永 拓世氏(東京文化財研究所研究員)

※12:00から講堂前にて、入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※入場整理券の受取の際には、本展の観覧券もしくはその半券、国立博物館パスポート、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。
※入場受付は講座開始後30分で終了いたします。

❖ イベント情報 ❖

■<新春企画>初博 初夢 初ショップ

新春企画として、なら仏像館へ入館されたお客様各日先着250名様に博物館オリジナルグッズをプレゼントします。当たりシールが付いていたお客様には、博物館グッズの詰め合わせや、地下レストラン葉風泰夢のおぜんざい、ミュージアムショップのグッズなどをプレゼントいたします。

【実 施 日】 1月2日(火)・1月3日(水)

■春日大社境内にておん祭展無料券付き小型チラシ配布

期間中に春日大社で配布される小型チラシをご持参の方は、この4日間に限り、おん祭展及び西新館の名品展を無料、なら仏像館・青銅器館を割引料金にてご覧頂けます。

【実 施 日】 1月2日(火)~1月5日(金)

■お水取り「講話」と「粥」の会

【日 時】 2月10日(土) 10:00~16:00頃

【定 員】 40名(先着順)

【集合場所】 当館 講堂

【料 金】 5,000円

【内 容】

①東大寺筒井寛昭長老による講話

②特別陳列「お水取り」の観覧

(解説:中川あや 当館学芸部主任研究員)

③童子が作る茶粥の試食

④東大寺二月堂の拝観と東大寺橋村公英執事長による現地解説

【申込方法】 当館ホームページの申込フォーム又はお電話にて。

※受付は1月5日(金)から開始

問い合わせ先:総務課企画推進係 電話:0742-22-4450

(祝日及び12月29日~1月3日を除く月~金の10:00~17:00)

◆奈良国立博物館賛助会

平成29年12月31日現在、一般会員(個人)54名、一般会員(団体)15団体、特別会員3団体、特別支援会員4団体のご入会をいただいております。

【一般会員(個人)】 林 乃理子 様(平成29年11月ご入会)

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■1月21日(日) 「刺繍の仏像」

田澤 梓(当館学芸部研究員)

裂地に刺繍で仏教的主題をあらわした繡仏は、飛鳥時代にはじまりました。繡仏を展示する平成30年夏の特別展の事前調査を通じて、分かったことやその魅力をご紹介します。

■2月18日(日) 「官人の腰帯」

中川 あや(当館学芸部主任研究員)

日本古代の役人は身分を表象するものの一つとして腰帯を身につけていました。正倉院の腰帯や発掘調査で見つかる腰帯、東アジアの腰帯など、古代の様々な腰帯の世界をご紹介します。

■3月18日(日) 「将軍が崇敬した温泉神」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

静岡県東端の温泉郷「熱海」。この地に鎮座する伊豆山神社の祭神・伊豆山権現(走湯権現)は、東国の守護神として信仰を集めました。その信仰について、近年の保存修理で面目を一新した銅造伊豆山権現像を中心に考えます。

■4月15日(日) 「高御座の造形の由来—天皇の即位と菩薩の階梯—」

樋笠 逸人(当館学芸部研究員)

天皇御即位に使われる玉座「高御座(たかみくら)」。特徴的な八角形の姿はなぜか、仏像を安置する厨子の形にも似ています。天皇と仏教との関係、奈良時代の華嚴思想から、その造形の歴史的背景に迫ります。

■5月20日(日) 「概説:中国仏像史」

松本 伸之(奈良国立博物館長)

日本の仏教文化の源となった中国において、歴代にどのような仏像が作られたのか、通史的に眺めてみる機会はありません。ここでは、中国に残る実際の作例を通して、中国仏像の歴史を改めて俯瞰します。

■6月17日(日) 「綴織當麻曼荼羅の修理と転写の歴史」

北澤 菜月(当館学芸部主任研究員)

夏の特別展「糸のみほとけ」において修理後初公開される當麻寺の本尊「綴織當麻曼荼羅」は、奈良時代に當麻寺に安置されてから幾度かの修理や転写を経て今に伝わりました。その歴史をご紹介します。

【時 間】 各回とも14:00~15:30(13:30開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※12:30から当館講堂前にて入場整理券(お1人様につき1枚)を配付します。

※入場受付はトーク開始後30分で終了します。

◆キャンパスメンバーズ

平成29年12月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学、関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部、京都外国語大学、京都外国語短期大学、京都教育大学、京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学、京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校、奈良学園大学、奈良文化女子短期大学部、奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、立命館大学大学院、龍谷大学、龍谷大学短期大学
(以上、五十音順)

てんぼうりんつつ 転法輪筒

1 合
総高23.6cm 蓋径5.8cm 身径口5.3cm
木製 墨画・淡彩
平安～鎌倉時代(12世紀)
当館



てんぼうりんつつ おんてき
転法輪筒は、怨敵退散や国家安穩、
あるいは安産などを祈る密教修法であ
る転法輪法に用いられた法具である。
転法輪法は真言密教の秘法であったた

めか、この修法を行う際に壇上に安置される転法輪筒の遺例は、
京都・高山寺や京都・醍醐寺、京都・仁和寺に伝わるものが知られ
る程度で極めて乏しく、本品は大変貴重な作例である。

筒身には十六大護と呼ばれる10体の夜叉(鬼形)、3体の龍王、
3体の天后(女神形)の都合16尊を、梵字による尊名とともに墨線
で表し、蓋表や底裏には輪宝を浮彫して、十字仏頂真言を墨書して
いる。また用材には「苦練木」すなわちセンダンと思われる木が用
いられている。いずれも転法輪法について説く唐・不空訳の『転法
輪菩薩摧魔怨敵法』の記述に一致しており、本品が転法輪筒であ
ることが経軌の上からも確かめられる。

十六大護を描く墨線はいかにも軽快で伸びやかさがあり、平安
時代末に隆盛した白描図像の描線と共通性がある。殊にその画風
は、高野山月上院で活躍した名手・玄証(1146～1222頃)の作例と
の親近性が指摘されており、高い芸術性を有するものとして評価さ
れている。

昭和時代後期に米国の収集家の手に渡ったが、近年国内に戻
り、平成27年度に当館のコレクションに加わった。この稀有な法具
を通じて、密教工芸の神秘的な世界を一層玩味していただければと
思う。

清水 健(当館学芸部工芸考古室長)

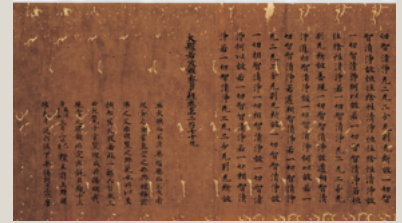
◆2月6日(火)～3月14日(水)

名品展「珠玉の仏教美術」(西新館)にて展示

展示品の みどころ

だいはんにゃきょう あべのおみずま ろがんきょう

大般若経〈安倍小水麻呂願経〉



1 巻[巻第279]
縦25.8cm 長505.7cm
紙本墨書
平安時代(9世紀)
埼玉 慈光寺

平安時代の初め、貞観十三年(871)に安倍小水麻呂という人物が
発願し、書写させた『大般若経』の写本である。埼玉県ときがわ町の
慈光寺に152巻が現存し、重要文化財に指定されているほか、諸機
関・諸家に数巻ずつの所在が知られる。『大般若経』は全600巻から
なる大部な經典で、わが国にはその写本が数多く伝存しているが、
こと9世紀に関しては遺品が非常に少ない。本経は、一具の『大般若
経』のうち3分の1以下の巻数とはいえ、まとまった数が残る9世紀の
遺品として貴重である。

図版に見られるとおり、本経は茶褐色に染められた紙を継いで
卷子装とし、淡墨で縦横の界線を引いて、経文を墨書する。定型
的な写経の姿である。筆跡は巻によって様々であり、多数の者が分
担して筆写していることがわかる。しかし、いずれも相当な技量を持
つ者の手になり、それだけの技術者を集められる環境があったと
推察される。

さて、本件が写経史上において重要な位置づけをなされている
ポイントの一つに、その巻末に記された写経発願文(願文)がある。
もともと600巻全巻にほぼ同文の願文があったと考えられ、慈光寺
所蔵152巻のなかでは102巻に願文を確認できる。100文字ほどで
構成されるその願文によって、本件は、貞観十三年(871)3月3日
に、かつて上野国の権大目を務め、従六位下の位階を持つ安倍朝臣
小水麻呂が発願したものであり、写経の目的は、仏道を信仰するすべ
ての人々を悟りの境地に至らしめ、あわせて小水麻呂自身の今生お
よび未来世の願いが成就することを祈ることであったとわかる。

9世紀のわが国における仏教信仰のあり方について考える際、欠
かせない史料である。

野尻 忠(当館学芸部企画室長)

◆2月6日(火)～3月14日(水)

特集展示「名もなき知識、発願者たち(写経編)」(西新館)にて展示

開館日時(1月～3月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

- ・金・土曜日は午後8時まで
- ・なら瑞瑞会の期間中、2月8日・11日～14日は午後8時30分まで、
2月9日・10日は午後9時まで
- ・東大寺二月堂修二会(お水取り)の期間中、3月1日・4日～8日・
11日・13日・14日は午後6時まで、3月12日は午後7時まで、
3月2日・3日・9日・10日は午後8時まで
- ※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休館日／毎週月曜日

- ・ただし、1月8日、2月12日、3月5日・12日は開館し、
1月9日以外は休館
- ※なら仏像館は1月9日～12日まで展示替えのため休館

●=国宝、○=重要文化財

観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一 般	大学生	高校生以下
個 人	520円	260円	無 料
団 体	410円	210円	無 料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、
障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は
無料です。
- ※1月の開館延長日の午後5時以降に観覧される方は団体料
金を適用します。(レイト割引)
- ※成人の日(1月8日)は、新成人の方は無料です。
- ※節分の日(2月3日)は無料観覧日です。
- ※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額となります。
- ※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用
します。(子どもといっしょ割引)



●:バス停

[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、または
JR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」
バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの
県営駐車場等(有料)をご利用ください。

 **奈良国立博物館**
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ <http://www.narahaku.go.jp/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを
明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は92円切手を、角形2号の場合は120円
切手を貼付してください。